
すれ違いな 2 人

金色夜叉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すれ違いな2人

【Nコード】

N8769C

【作者名】

金色夜叉

【あらすじ】

お互いに好きなのに何だか、言い出せない2人の日常を書いたら
ブコメデイ！2人は無事に結ばれるのか？

第1話（前書き）

あまり文章力には自信がありません。色々勉強していこうと思います！読んでいただけたら嬉しいです。

第1話

俺は、御堂恵一^{みどうけいち}みんなは、俺の事をケイと呼ぶ。
普通の高校二年生だ。学校での素行はあまり良いほうではない。喧嘩にだって自信がある。学校には1人を除いて敵はいない…そう1人をのぞいては…

まあ俺の紹介はこのくらいにしてここから物語の始まりってことでよろしく。

「ジリリリリ」目覚ましの音が耳をつく、

「あーマジウザイ」眠そうに時計を見るケイはとても、不快な朝を迎えていた。

「あーマジ眠い今日は学校サボろうかな」眠いのも当たり前前昨日の夜友達と遊び家に帰ったの朝の5時、そして今が7時

「しょーがねえ眠いものは眠い！今日はサボる」

ちなみに俺は1人暮らしのためサボっても親には何も言われない。

別に両親が居ないわけではなく2人とも海外で仕事をしているのだ。また眠りについたケイであった。

数分後

「ピンポーン」

「まったく誰だよウルサイなー！いや待てこの時間に来るのはアイツしか居ない…」

ガチャ！玄関の鍵が開いた音がする。そして次に俺の部屋のドアが開く。

「もーいい加減いつまでも寝てるの？早く準備しないと学校に遅れるよ！」と言いながら部屋に、来たのは幼なじみの日野ミカ（ひのみか）だ。

そうコイツが俺の学校での唯一の敵というか、俺はコイツにだけは、頭が上がらない。つとまあコイツの紹介はまた今度するとして、まあなんだかんだで、俺はコイツのことが好きなのである！とか軽い紹介をしている間に布団は剥がされていたのだった。

「ほら何ブツブツ1人で言ってるの？早く着替えてよ！私は朝ご飯の支度してくるから」とミカが言う。

逆らうと後が怖いので俺はしぶしぶと着替え始めた。キッチンに行くところ、コーヒーマシンの良い匂いが漂っていた。今日の朝飯はトースト、コーヒーマシンの良い匂い、サラダだ！ミカが朝飯を作ってくれるように、なつてもうすぐ1年がたつ高校に入ったらばっかりのころ両親が海外に行くことになった。と言うのをミカに話したら、

「じゃあ私がお飯作ったり洗濯とかしてあげる！」と言い出したのだ。俺の両親も

「ミカちゃんが来てくれるなら安心ね」とか言い簡単に合鍵を渡したのである。そうこうしている内に朝飯が出来上がったようだ。

「いただきます！」2人で朝飯を食べているとミカが

「もうすぐ私達がこうやって朝ご飯を食べるようになってからもうすぐ1年だよ」俺はただ

「そうだな」と言い朝飯を食べる。そんな話をしていると

「あつてもうこんな時間だ早く、かたづけしないと」ミカが慌てるそう言いながらテキパキとかたづけ

「ほら早く行くよ！」と手を引かれながら玄関へ行き鍵をしめて学校へ行く。いつもと変わらない穏やかな1日。

第2話（前書き）

主人公達のプロフィールを紹介します！御堂恵一^{みどうけいち}

身長174cm

体重67kg

髪型 短髪（茶）

かなりガラが悪い！ヤンキーだが成績はかなり良い。スポーツ万能。

日野ミカ（ひのみか）

身長162cm

体重？kg

髪型セミロング（黒）

学校で五本指に入る美少女！成績は普通スポーツ万能！

とまあこんな感じです。今回でとりあえずは2人の紹介が終わりました。次から本格的に物語のスタートです！

第2話

私の名前は、日野ミカどこにでもいる普通の高校生。そんな私には、少し普通の高校生とは、違う日課がある。それは、毎朝ある人に朝ご飯を作ってあげること。

「ジリリリリリ」っと目覚ましの音が静かな部屋に響く。時間は朝6時。

「さーて今日もアイツに朝ご飯を作ってやるか！」っと言いグツと背伸びをする、窓を開け外の空気を吸うミカはこの朝の空気が大好きである。

まだ、少し目の覚めていない目をこすりながら自分の部屋を出て洗面台へと向かった。そして歯を磨き、シャワーを浴びるこれが大体のミカの朝だ。シャワーを浴び髪を乾かしセットをして制服に着替える。今時の高校生といえは化粧はしているのだが、ミカはほとんど化粧はしない。それでも学校では五本指に入る美少女だ。

「あっもうこんな時間アイツを起に行かなくっちゃ！ほっとくと昼過ぎまで起きないから」と言い家をでる。

お気づきのとおりアイツとは、ケイのことである！そしてケイの家に行く途中に、ミカは考えごとをしていた。『あーいつにればアイツ私の気持ちに気付いてくれるのかなあ私って魅力ないのかなあもうアイツと出会って10年以上たつのに全然そんな素振り見せないし』などと考えてるうちにケイの家に着いた

「そんなの考えても仕方がないか！私は私なりに頑張ればいいし！さーてあの遅刻魔を起こしに行きますか！」と気合いを入れて玄関のドアを開ける。今日の朝ご飯は何にしようかな？でもホントに毎日ご飯を作るって大変なんだよね。お母さんのこと本気で尊敬するよ。さー頑張ろうっと。

第3話（前書き）

今回はケイの悪友の登場です！

第3話

季節は6月、ケイとミカは学校へ行っていた。

「あーマジなんでこんなに雨ばかりなんだよ」

「しょうがないでしょ！今は梅雨なんだから！」と駄々をこねるケイに言いツカツカと雨の中を歩くミカ。

そして2人は学校に着いた。

げた箱で靴をはきかえていると後ろから

「おつはよー！今日も2人ともラブラブだねえ！」と朝からテンションの高いコイツは俺のダチの中谷海^{なかやまかい}コイツと俺は中学からの仲だ。コイツとは昔から二人でいろいろやってきた。それはまた別の話で。

「つーか毎朝、同じことばっか言ってあきねーの？」
と冷たくあしらう。

「あーまたそう言うことを」とカイが言う。

「どういうことだよ！」とケイが少し動揺しながらいう。

「まーいろいろだってことだよ。まあそんなこと、どうでもいいから、さつさと教室にいくぞ。」とカイが言い3人は教室に向かう。教室に着き3人は自分の席へと座った。しばらくしていると、カイがケイに近づいた。

「あのな、カイ明日いつも行ってるパチンコ屋がイベントなんだよ。さつきはミカちゃんが居たから言わなかったけど、どうする？」とケイに聞く。

「行くに決まってるだろ！ミカには絶対言っなよ」

時間は過ぎ放課後。ケイはミカと一緒に帰っていた。

「てかさーアンタ、カイ君とまた何か悪巧みしてたでしょ？」とミカがケイを目を細めて見ながら言った。

「ななな何言っただ。」

「てかさー何隠しても私にはお見通しみたいな！」

さーて2人は明日の朝無事にパチンコにいけるのでしょうか？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8769c/>

すれ違いな2人

2010年12月31日15時16分発行